

製品名: チミジンキナーゼ (リン酸化 Ser13) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab05555**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください (12 ヶ月有効)。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	25kDa

抗原情報

遺伝子名	TK1
別名	TK1; Thymidine kinase; cytosolic
遺伝子 ID	7083.0
SwissProt ID	P04183
免疫原	抗血清は、Ser13 のリン酸化部位周辺のヒト TK 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 1-50

背景

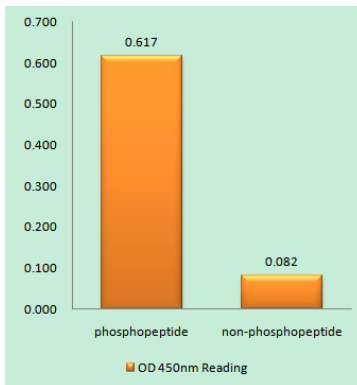
触媒活性: ATP + チミジン = ADP + チミジン 5'-リン酸。、その他:動物細胞では 2 つの形態が同定されており、1 つは細胞質に、もう 1

つはミトコンドリアに存在します。細胞質酵素の活性は増殖細胞で高く、細胞周期の S 期にピークに達します。休止細胞では非常に低くなります。、PTM:有糸分裂中に Ser-13 がリン酸化されます。、類似性:チミジンキナーゼファミリーに属します。、触媒活性:ATP + チミジン = ADP + チミジン 5'-リン酸。、その他:動物細胞では 2 つの形態が同定されており、1 つは細胞質に、もう 1 つはミトコンドリアに存在します。細胞質酵素の活性は増殖細胞で高く、細胞周期の S 期にピークに達します。休止細胞では非常に低い。、PTM:有糸分裂中に Ser-13 がリン酸化される。、類似性:チミジンキナーゼファミリーに属する。、

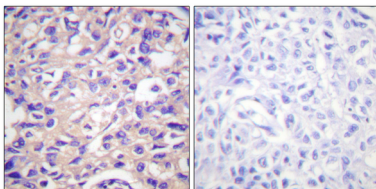
研究分野

ピリミジン代謝;薬物代謝;

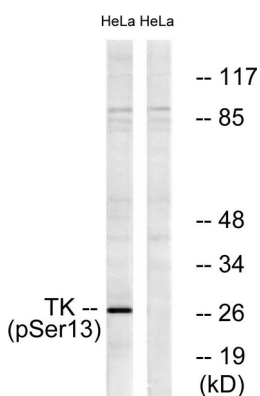
画像データ



TK (リン酸化 Ser13) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定 (リン酸化 ELISA)



TK (リン酸化 Ser13) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト乳癌の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



パクリタキセル 1 μ M で 24 時間処理した HeLa 細胞のライセートを TK (リン酸化 Ser13) 抗体を用いてウェスタンブロット解析した。右レーンにはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。